

## 豊島区 中高生センター ジャンプ長崎

### 若者の「やってみたい」を応援 ～軽音同好会メンバーと高校文化祭ライブを実現

#### 取組の背景・目的

- ・ ジャンプ長崎は、中高生の「やってみたい」を応援することをモットーとしている。
- ・ 利用者自らが企画をして活動することを応援する「自主企画」事業がある。
- ・ 「自主企画」は、自分の興味があること・得意なことを他の中高生も巻き込んで活動することを応援する事業。中高生の「意見表明」の場として月1回行っている「利用者会議」と同様に、豊島区「子どもの権利に関する条例」に基づいて取り組む活動。
- ・ 「学校に軽音部がないので立ち上げたい」。ギター好きな高校生が、ジャンプでバンド活動している他校軽音部高校生を見て相談あり。
- ・ 当初は校内設立を目指すが実現せず。それならばジャンプ内で活動してはどうかと助言により「自主企画」として活動が始まる。

#### 取組の概要

- 軽音同好会 活動開始（令和5年7月より）
  - ・ 発起人の高3生により、友人やLINE等を駆使し呼びかける。
  - ・ 学校の部活動同様に、体験会を実施。初回15名が参加。仮参加を経て4バンドが結成され活動開始となる。
  - ・ 同好会活動はバンドごとにジャンプ音楽スタジオで練習。学校部活動と兼部している人が多いが都合をつけ来館し練習を重ねる。
- 館内ライブ（令和5年8月）
  - ・ バンド活動を始めたばかりの後輩にライブの楽しさを体験してほしいと代表が企画。「ゆるライブ」と題し、気楽に出演して楽しめるイベントを職員と一緒に準備。
  - ・ 同好会メンバーだけでなくジャンプを利用する他校生も参加。
  - ・ 出演者・参加者計46名が参加。
- 高校文化祭ライブ（令和5年9月15日）
  - ・ 同好会メンバーより、高校文化祭でライブやりたいと相談あり。まずメンバーが高校文化祭担当教員と交渉。ライブ機材の手配ができるならとOKが出たため、ジャンプとして応援することを決定。
  - ・ 準備のため高校に何度か出向き、担当教員・同好会メンバー・高校文化祭実行委員と協議準備を進める。
  - ・ 機材は日頃よりボランティアでジャンプ音楽活動を支えるミュージシャンに事業委託し手配。当日は、ジャンプ職員2名・ジャンプ卒業生2名・事業委託先の音響スタッフで高校体育館へ。軽音同好会メンバーとともに体育館ステージを作り上げた。
  - ・ ライブ出演高校生22名。

## 工夫点・留意点

- 高校との関係づくりは日頃より難しさを感じているため、利用者より高校文化祭ライブの話が出た当初は不可能と感じたが、高校生の熱意により学校側も文化祭に外部団体であるジャンプを受け入れることが可能となった。
- ジャンプ音楽スタジオは、本来はスタジオ講習を受講してから利用することが原則。しかし今回は軽音同好会の体験会への参加ハードルを下げるため、初回は講習未受講でも自由に参加することを認めた。そのため主宰者の声掛けで「とりあえず」来てみた方が結果的に軽音同好会メンバーとなり、文化祭ライブ以降もジャンプへ来館しジャンプイベントにも参加することにつながった。



## 取組の効果

- 軽音同好会は立ち上げた高3生から代替わりし継続。文化祭ライブで校内に周知され、新代表のもと第2弾の体験会を経て高1を中心に新たにメンバーが増えた。
- 文化祭ライブ以降も多数のメンバーが来館し、多世代交流施設のイベントステージに出演し地域活動にも貢献。
- ジャンプ長崎主宰のライブハウスライブにも出演。他校の中高生と音楽を通じた交流を深める。

## 課題・今後の展開

- 「自主企画」の活動について周知しているものの、取り組む利用者はまだ少ない。今回の活動や、昨年度「自主企画」で同様に取り組んで麻雀活動をスタートさせた高校生の取組など成功事例を周知し、中高生の「やってみたい」を掘り起こしたい。
- 軽音同好会の校内活動団体としての許可はまだ保留とのことなので、引き続きジャンプ内での活動を支援し、練習の成果を発表する場を提供していきたい。またメンバーからの要請があれば学校との交渉も応援していく。